

KIDS SMILE LABO JOURNAL *February*



世界にひとつの器と 私たちの想い

KIDS SMILE LABO では、卒園を迎える年長児たちが毎年「器への絵付け体験」に挑戦します。私たちが大切にしている「食」。その時間を支える大切な存在のひとつが器です。子どもたち自身が白い器に向き合い、思い思いに彩り、世界にひとつだけの食器を完成させていきます。

それは単なる制作活動ではありません。小学生になってからも、「食べる」という営みを大切にしてほしい。そんな願いを込めた、園からの贈り物です。絵付け当日。初めて訪れる陶磁器工場の空気に、子どもたちは少し緊張した面持ちでした。しかし、筆を持ち、器に触れ、色を重ねていくうちに、次第に表情がやわらいでいきます。やがて訪れるのは、深く静かな集中の時間。周囲の音さえ遠のくような、豊かな没頭の世界です。

描かれるのは、好きなものだったり、ふと心に浮かんだ形だったり。手の動きとともに、子どもたちの内側にあるものが器の上にあらわれていきます。その過程そのものに、これまで当園が大切にしてきた日々の積み重ねが映し出されているように感じます。真剣なまなざしに、私たち大人も思わず引き込まれてしまいます。

焼き上がった器は、KIDS SMILE LABO の食を共に支えてくださっている 2343 FOODLABO へご招待いただく卒園ランチの席で初めてお披露目となります。自分の器に料理が盛りつけられ、友達と囲む食卓。その光景は、子どもたちの心にきっと長く残ることでしょう。

「体験して終わり」ではなく、その後のつながりまで丁寧に紡いでいくこと。そこにこそ、子どもたちの育ちを支える意味があると私たちは考えています。

絵付け体験は、子どもたちにとっても、そして私たち保育者にとっても、感じ、考え、これまでとこれからを結ぶ時間。一つ一つの器には、確かな育ちの記憶が息づいているのです。

保育園 KIDS SMILE LABO 園長 森 誉



01

Top ページ

先日大地クラスが訪れた「絵付け体験」について園長より執筆です

02

子どもたちと一緒に仕込む
手作り味噌

今年も LABO で使用する 1 年分の
味噌を仕込みましたよ

03

乳児クラストピック

2 月の小さい人たちの様子を
ご紹介！

“キッズ スマイル ラボ ジャーナル”

KIDS SMILE LABO が発行するフリーペーパー。普段 SNS でしか見られない保育園の子どもたちの様子や、子育てに関する情報等、最新情報をお届けします。

kidssmilelabo.com



@kidssmilelabo @kidssmilelabo KIDS SMILE LABO @KIDS_SMILE_LABO

Over the past month, each class has been bustling with activity. Our homeroom teachers have carefully crafted these class reports with great affection. We invite you to enjoy reading about their journey. This is the page for the classes of children aged 3 to 5.

Minamo Ozora Daichi



最初に煮たばかりの大豆を試食してみよう！



STEP 1

麴と塩を混ぜます！
手を合わせてスリスリすると
一粒ずつに塩がコーティングされて
美味しくなります！

子どもたちと一緒に仕込む 手作り味噌

ラボの給食で登場する味噌汁。その味噌が、子どもたちの手で仕込まれていることをご存知でしょうか。一年分の味噌汁を賄うために仕込む味噌は、大豆 10 キロ、麴 10 キロ、塩 5 キロ。数字にすると、その量の多さに驚かされます。「自分たちが食べるものは、自分たちでつくろ。」ラボでは当たり前のように調理の日がありますが、それは単なる体験ではなく、暮らしへとつながる大切な時間だと感じています。

味噌作りは、塩と麴を混ぜるところから始まります。きらきらとした塩と麴に触れながら、子どもたちはその変化をじっと見つめていました。はじめはそれぞれの香りだったものが、混ぜ合うにつれて、「良い匂いにかわった！」と気づきを言葉にする姿も見られ、素材が変化していく過程を、五感を通して感じている様子が伝わってきました。

次に、大豆を潰します。ほんのり温かい大豆を足で踏んだり、指先で潰したり、中には大豆の上に寝転び、その温もりを味わう姿も見られました。また、「2人ずつ潰したい」という声に耳を傾け、順番を整理する年長児の姿もあり、こうした場面の中に、日々の積み重ねによって育まれてきた成長を感じました。

味噌づくりでは、チームごとに大きさや形にも違いが生まれ、それぞれの手で丁寧に丸められていきます。樽に入れる場面では、昨年の経験を思い出しながら空気を抜くように押し込む姿も見られ、これまでの経験が子どもたちの中に息づいていることを感じました。最後に「おいしくなっね」と声をかけ、味噌を寝かせました。今日作ったこの味噌がゆっくりと発酵し、やがて毎日の味噌汁となって給食に並び、口に運ばれた時、子どもたちはどのような表情でその味を感じるのでしょうか。その日を楽しみにしながら、この味噌と共に過ごす時間を、子どもたちと一緒に大切にしていきたいと思えます。

text by Reiji Akamatsu



STEP 2

みんなで大豆をつぶします！
大豆が温かくて
思わずごろりと寝転ぶ姿も！



STEP 3

ぎゅっぎゅと空気を抜きながら
お団子にして…



STEP 4

樽に **アイ** と投げ込みます！



STEP 5

塩で蓋をして…
できあがり！



完成は秋ごろ！
できあがりを楽しみます。

Nobana

1月の後半、のぼなでは新しく「うがい」の挑戦が始まりました。風邪やインフルエンザの菌がどのように体に入ってくるのかを絵本で知った子どもたちは、「どうしてうがいをするのか」という保育者の話にじっと耳を傾けていました。まずは保育者が手順を見せて子どもたちも水を入れずにまねっこからスタートしましたが、いざ本番になると口に水を含んで上を向くことが思った以上に難しいことに気づきます。水を入れるのが怖い子、上に向けても口を開けるのが難しい子、それぞれの「むずかしい」に向き合いながら少しずつ挑戦を重ねていきました。保育者も上からそっとのぞき込んで目を合わせたり、「何本の指が見えるかな」とクイズにしてみたり、子どもたちの気持ちに寄り添いながら見守ってきました。そんな日々の積み重ねの中で、ふとした瞬間にしっかりとできてしまうことが

「できた」の瞬間



あり、「できたね」と声をかけると、嬉しさが全身からあふれ出すようにジャンプして喜ぶ姿が見られました。うがいだけではなく、トイレでおしっこができた、パンツに挑戦したり、登れなかった斜面が登れたり、保育者の中には子どもたちの「できた」が生まれる瞬間がたくさんあります。時には本人がその瞬間に気づいていないこともありますが、保育者のひと言でぱっと誇らしげで嬉しそうな表情になります。最初は「めんどうだな」「こわいな」と感じていたことが、いつの間にかできるところになっていく。その積み重ねが自信となり、次の挑戦へとつながっていきます。そんな小さな「できた」を大切にしながら、一歩ずつ成長していく姿を見守っていきたく思います。

Text by Terumi Sugawara

Soyokaze

自然から学ぶ子どもたちのすがた

2月。雪が積もったあの日。みんないつもの広場まで出かけました。一面の銀世界に目を輝かせながら、子どもたちは元気いっぱい駆け回っていました。歩くたびに足跡がつくことに気づき、「みてー」とうれしそうに何度も行ったり来たりする姿も見られました。保育者が雪を丸めて雪だるまを作ると、「はな」と真ん中にとんがった雪をつける子、そばにいた子が「め」と飾ってくれました。みんなで「かわいいねえ」と眺める、ほほえましいひとときでした。

「入ると冷たいよ」と知らせる保育者の声に耳を傾けながらも、心の中には「入ってみたい」という気持ち。くしゅっと足を入れた瞬間の表情は、驚きと楽しさが混ざった、何事にも代えがたいものでした。その様子をじっと見ていた子も、「たのしそう」と一歩踏み出します。「つめたい」と言いながらも、どこか嬉しそうな表情。入る子、入らない子、それぞれが自分で選び、その体験を味わっていました。帰園後、温かいお湯に浸かる時間もまた、心地よいぬくもりを感じるひとときとなりました。冬ならではの自然に触れながら、心も体もたくさん動かした雪あそびとなりました。

Text by Ayako Fukushima



Komorebi

「やってみみたい」気持ちのはじまり

寒さも和らぎ、再び気持ちの良いお散歩日和になってきたこの頃。これまで、バギーに乗りたいたいという気持ちが多かったこもれびさんが「歩きたい」気持ちに変化中です。お散歩出発前は、みんなの「あるく〜」の声に溢れ、バギーの前は通り過ぎ、乗りこんでいく人がいなくなりました。なんと頼もしくなってきた姿に成長を感じています。しかし、まだ手を繋いで歩いていける人数は限があるので「順番に歩こうね」と声をかけると、しゅしゅバギーに乗って自分が歩く番を待っていてくれます。(協力してくれる姿も成長です。ありがとう) そんな体を動かす楽しさ、嬉しさを感じ始めたこもれびさん。さくら広場の斜面登りに挑戦中です！

より急で長さもあります。これまで、お兄さんお姉さんたちが、斜面で遊ぶ姿を近くの砂場から見ていることが多かったのですが、最近、自ら斜面に向かっていく姿が見られるようになってきました。楽しそうな姿を見て「やってみたいな」と感じ、やってみようとするかわいい背中。まだまだ思ったようにいかないことが多く、登れない悔しさや、すべて悲しかった気持ちを感ぜながらではありますが、それを上回るやってみたい気持ちの芽生え。その挑戦は、さくら広場へ行くたびに続き、少しずつ力をつけているところです。この先にある「登れた喜び」に向かって、私たちも一緒に嬉しい気持ちを味わえる日が楽しみです。

Text by Terumi Sugawara

